

平成24年度

公益財団法人JKA補助事業

ICT社会における安全・安心確保に関する補助事業
実施報告書

一般財団法人コンピュータ教育推進センター



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

はじめに

近年、インターネットやパソコン、携帯電話などＩＣＴが日常生活に欠かせないものとなり、子どもたちも学習や友達とのコミュニケーションなどに頻繁に利用するようになってきている。今後、インターネットやパソコン、携帯電話・スマートフォン・ＰＨＳ（以下「ケータイ」とする）などの特性を踏まえ、積極的・主体的に活用していく子どもたちを育成していくことが望まれる。

一方、インターネット上では、誹謗中傷やいわゆる「ネットいじめ」、青少年を対象とした犯罪や違法・有害情報、いわゆる「ケータイ依存」などの問題が数多く発生しており、これらの問題に適切に対応できるよう、「情報モラル」について指導することが必要となっている。

このような状況を受け、新学習指導要領では、その総則で「情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにする」などとして、すべての教科等においてすべての教員に情報モラル教育の実施を義務づけ、学校における情報モラル教育をさらに充実させることとした。

しかし、子どもたちのインターネット利用実態調査を見てみると、彼らがインターネットやパソコン、ケータイ等を利用するのは、家庭や友達の家、通学路などの学校外での使用が圧倒的に多くなっている。このような学校外でのＩＣＴ利用を適切なものとするためには、学校で情報モラル教育を行うだけでなく、保護者や地域住民の方々にも「情報モラル」について理解していただき、家庭での約束づくりや地域における「見守る目」作りなどを行っていただくことが必要である。そのような家庭や地域での「情報モラル教育」の推進が喫緊の課題となっていることは、文部科学省の『教育の情報化に関する手引』で、「第５章 学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携」としてわざわざ情報教育とは別に章を起こしていることでもわかる。このような家庭・地域と連携した情報モラル教育の実現を目指したのが、本「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」である。

ＣＥＣでは、平成 20～22 年度に子どもたちと保護者・地域住民を対象に実施された「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の成果を受け、平成 23 年度からは、各学校の先生方が「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」や「情報モラル教育研修会（校内研修会・地域研修会）」の講師となることを可能とする「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを実施し、より多くの児童生徒、保護者・地域住民の方たちが情報モラルについて学ぶことができるようにした。

また、平成 23 年度はスマートフォンの普及やゲーム端末からのインターネット接続など、これまでインターネットの入り口であったパソコンや携帯電話以外での多様なプラットフォームの情報端末から各種教材を利用できるようマルチプラットフォーム化を行うとともに、「ネット社会の歩き方」の「情報モラル教育ポータルサイト化」も行った。

本年度は、中学生・高校生へのスマートフォンの急速な普及に伴い、無料通話ソフトや各種アプリの利用、ID 連携などによる新たな危険が現出し、それへの対応が喫緊の課題となっていることから、中学生・高校生用テキスト『スマートフォン対応 中学生・高校生のためのネット社会の歩き方』を開発した。これにより、小学生から高校生までを対象にした情報モラル教育テキストがそろい、学校・家庭・地域での情報モラル教育がより行いやすくなった。

本事業は、子どもたちがネット社会に正しく対応できるようになることを目的としており、学校の先生が各教科等の中で情報モラル指導を正しく行うことができるよう、家庭では保護者や子ども自身が情報モラルを学ぶための一助となるよう情報を提供するものである。

本報告書は、これらの活動の成果と課題及びアンケート調査により明らかになった実態等について、記したものである。今後は、本事業の成果物を生かし、より多くの先生方が講師となって、家庭や地域での「情報モラル教育」がさらに普及していくことを期待している。

平成 25 年 3 月

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー検討委員会委員長
鳴門教育大学准教授 藤 村 裕 一

目 次

1. 事業概要.....	1
1. 1 事業の目的	1
1. 2 事業の内容	2
(1) 委員会の設置.....	2
(2) 講師育成セミナー開催地の募集	3
1. 3 事業の経過	4
2. 講師育成セミナーの開催	5
2. 1 講師育成セミナーの目的.....	5
2. 2 セミナーの概要	5
2. 3 セミナー開催団体一覧	6
2. 4 開催団体からの報告	7
3. ICT社会におけるインターネットリテラシーの育成.....	25
3. 1 社会的課題の現状	25
3. 2 目指す姿と事業の目的	25
3. 3 青少年向け教材の開発	25
(1) 検討委員会の設置.....	25
(2) インターネットリテラシー育成用教材の基本検討	25
(3) インターネットリテラシー育成用冊子の開発	26
3. 4 今後の活動について	26
4. まとめ.....	27
4. 1 ICT社会における情報モラル講師育成の活動	27
4. 2 ICT社会におけるインターネットリテラシーの育成	28
4. 3 次年度へ向けて 継続と促進	28
アンケート質問票	30

1. 事業概要

1.1 事業の目的

インターネットが社会生活に浸透し、インターネットへの入り口となる情報端末もパソコンから携帯電話、スマートフォン、タブレット端末のように多様化することで、いつでも、どこでも、利用することが可能となり、さらに身近なものとなっている。またインターネットの利用によって、多くの情報を手軽に入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、買い物なども可能になると同時に、もう一方ではプロフや無料ゲームなどのコミュニティサイトでの犯罪などに巻き込まれるなど、それらに子どもたちが係わる事例も発生している。

これまで一般財団法人コンピュータ教育推進センター（以下、CECと称す）では、インターネットが危険だということで、それらから子どもたちを遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけることが大切であるという考え方で、「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたこともあり、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することとしている。平成23年度から情報モラル指導の講師を育成すべく公益財団法人JKAの補助を受け「ICT社会における情報モラル講師育成事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催することとし、今年度はその2年目にあたる。正しい指導は重要な観点なので、セミナー参加者が地域教育委員会や学校に帰りそこで講師として指導ができるための教材の充実と指導方法を用意し、裾野を広げる事業を実施している。

またCECでは、昨年度から「青少年のインターネットリテラシーに関する実態調査」として高校1年生を対象にしたインターネットリテラシーの調査を実施した。それら事業を行う中で、当財団で開発してきた情報モラル教材について以下のような課題があることに気づいた。まず一点目は、昨今利用者が増えているスマートフォンに関した問題を扱った教材が少ない。次に二点目として、もっとも携帯電話を保有する年代である中学校から高校生を中心とした教材が少ないということである。それら課題を受けて、今年度は「ICT社会におけるインターネットリテラシーの育成事業」として中学生・高校生向けの情報モラル指導用テキスト、教材の開発を行うこととした。

これら事業は、「ICT社会における安全・安心確保に関する補助事業」として、子どもたちがネット社会に正しく対応し、安全・安心して利用できるようになることを目的としており、学校の先生がそれぞれの教科の中で情報モラル指導が行えるように、家庭では保護者や子ども自身が情報モラルを学ぶために、それぞれ一助となる情報、材料を提供するものである。

1.2 事業の内容

昨年度同様、母体委員会である「親子のためのネット社会の歩き方」検討委員会にてご活躍頂いた有識者を中心にて検討委員会を構成し、以下の内容を実施した。

- ・全国13箇所の教育委員会等において、教職員と指導主事を中心とした「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを15回実施した。
- ・スマートフォンに関する話題を扱った、中学生・高校生向けの情報モラル指導用テキストの開発を行った。

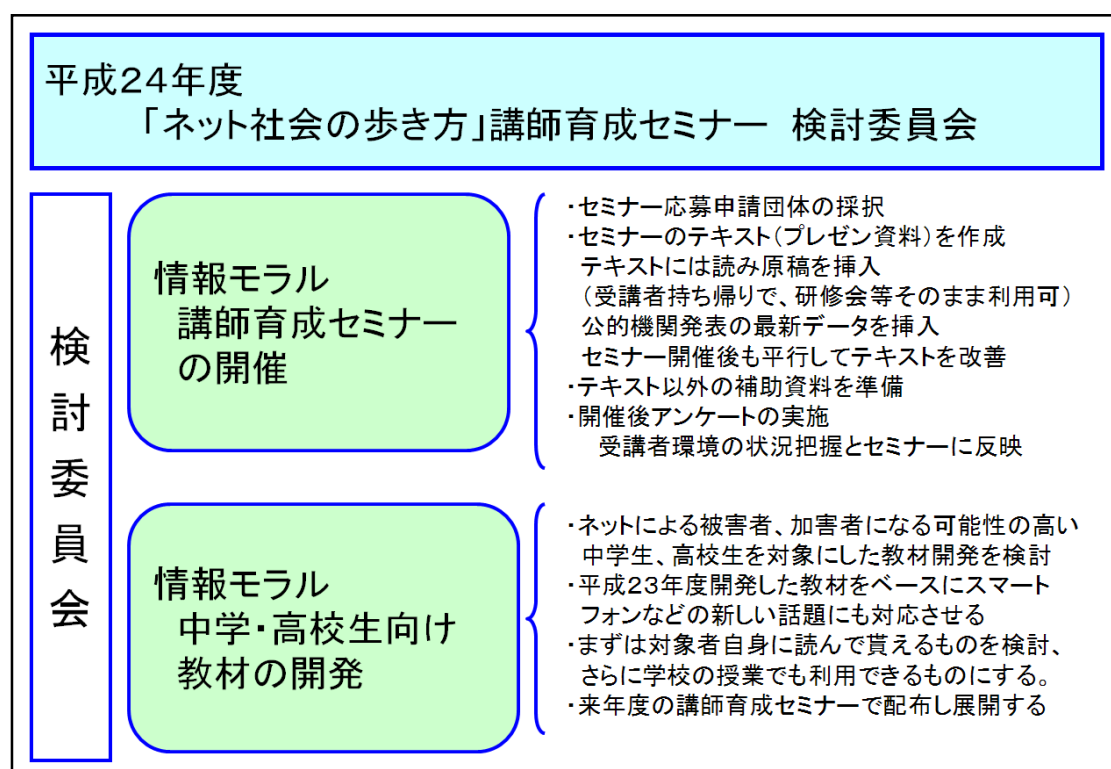
(1) 委員会の設置

当財団に委員会を設置し、情報モラル講師の育成セミナー開催と、中・高校生向けの教材の開発、及び報告書の執筆、アンケートデータ分析などを行った。

検討委員名簿

委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学
委員	石原 一彦	岐阜聖徳学園大学
	榎本 竜二	東京女子体育大学
	梶本 佳照	三木市立教育センター
	木村 和夫	台東区立浅草小学校
	佐久間 茂和	台東区立教育支援館
	高橋 邦夫	千葉学芸高等学校
	西田 光昭	柏市立田中小学校
	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中学校

実施概要図



(2) 講師育成セミナー開催地の募集

以下の要領で育成セミナーの開催募集を行った。

- ・テーマ：「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー
- ・開催時期と時間

平成24年6月から平成24年12月の間の 午後半日を1回（原則）
（理論編講義とワークショップを実施のため、150分以上の時間確保を依頼。）

- ・対象受講者と会場あたりの定員

指導主事，教職員 約50名程度（目安）
（定員は目安であり，これを上回る，あるいは下回る人数での応募も妨げない。）

- ・開催会場

教育委員会や自治体の施設等，無償の会場
受講者がパソコンを使用可能な会場（必須）

- ・セミナーの具体的な内容

セミナーの具体的な内容については，当財団に設置される「講師育成セミナー検討委員会」が貴教育委員会と協議して決定します。

セミナーの例として下記のような①理論編 ②ワークショップ を組み合わせた構成としております。

第1部：理論編 60分

テーマ：情報モラル教育の現状やその重要性について

概 要：社会や学校生活における情報モラルに対する現状認識と今後の方向性について

- ・学校における情報モラル指導事例の紹介

講 師：学識経験者

第2部：ワークショップ 90分

第1部の講師に司会をお願いし，ワークショップ形式で会場の参加者と意見交換を行う。

なお，参考として平成23年度に実施した「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー教材，資料をCECホームページにてご参照ください。

1.3 事業の経過

今度の事業経過を以下に示す。

平成24年

- 5月25日 講師育成セミナー検討委員会 第1回 開催
今年度事業の確認と講師育成セミナー開催応募状況を審議
また、セミナーの研修資料についての検討した
- 6月8日 高知県教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 6月13日 新潟市立総合教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 6月27日 倉敷市教育委員会情報学習センターによる講師育成セミナーを開催
- 7月3日 やまぐち総合教育支援センターによる講師育成セミナーを開催
- 7月23日 奈良市教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 7月27日 豊中市教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 7月31日 大津市教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 8月2日 前橋市教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 8月3日 前橋市教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 8月3日 川崎市総合教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 8月3日 盛岡市教育研究所による講師育成セミナーを開催
- 8月7日 高知市教育研究所による講師育成セミナーを開催
- 8月7日 岐阜市教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 8月27日 佐賀県教育庁による講師育成セミナー（午前・午後2回）を開催
- 11月19日 中・高校生向冊子作成検討委員会 第1回 開催
委員会の目的と開発する冊子の対象者、構成内容の概要を確認
- 12月13日 中・高校生向冊子作成検討委員会 第2回 開催
各委員から担当するページの内容を提案頂いた

平成25年

- 1月18日 中・高校生向冊子作成検討委員会 第3回 開催
委員からの提案をベースに冊子デザインを委託会社より提案
- 2月19日 中・高校生向冊子作成検討委員会 第4回 開催
各委員によるリライトした冊子デザイン案を確認
- 3月1日 国立オリンピック記念青少年総合センターにてCEC成果発表会開催
「ネット社会の歩き方」情報モラル指導体験セミナーを分科会Dとして開催
- 3月26日 中・高校生向冊子作成検討委員会 第5回 開催
各委員による冊子の最終納品確認と冊子の普及啓発について検討を実施,

2. 講師育成セミナーの開催

2.1 講師育成セミナーの目的

学習指導要領の総則には「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載され、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をすることが必要になった。そのためC E Cでは、全ての教職員が情報モラル指導を行えるようにするための準備を手助けする、具体的には情報モラル指導をできる教職員を増やすために校内研修会などを計画、開催する手助けをすることとした。その手助けとして「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーと称した情報モラル指導の講師を育成するためのセミナーを開催した。セミナーではネット社会の現状を理解することからはじまり、指導に必要な教材、コンテンツなどの情報提供から、研修会計画の組み方などをワークショップで体験できるようにした。

2.2 セミナーの概要

セミナーでは以下のような内容について、講師より講義形式で実施する。

1. データから見るネット社会の現状
2. 情報モラルの指導（理論編）
3. 情報モラルの指導（実践編）
4. 「ネット社会の歩き方」の活用
5. その他の教材の紹介
6. 保護者との関わり
7. 問題発生時の対応

これら内容を講義にて一通り学び、その後受講者は各自のパソコンからWeb上の情報モラル関連のコンテンツ、例えばC E Cが公開している「ネット社会の歩き方」などの教材コンテンツを実際に体験してもらう。セミナーの最後には、学んだ情報や体験したコンテンツをもとに、情報モラル指導のための校内研修会を計画してみるなどというテーマで、受講者はグループ毎にワークショップを実施する。

2.3 セミナー開催団体一覧

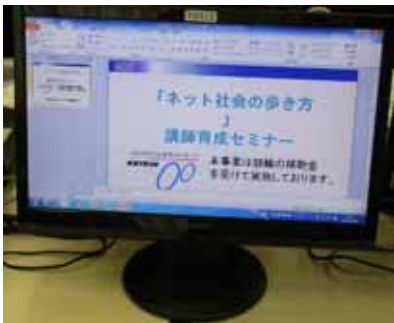
表 採択された申請者とセミナーの担当講師一覧

	開催日	申請者	申請者種別	地方	派遣講師
1	2012年6月8日	高知県教育委員会事務局	県教育機関	四国	石原委員
2	2012年6月13日	新潟市立総合教育センター	市教育機関	甲信越	三宅委員
3	2012年6月27日	倉敷市教育委員会情報学習センター	市教育機関	中国	佐久間委員
4	2012年7月3日	やまぐち総合教育支援センター	県教育機関	中国	梶本委員
5	2012年7月23日	奈良市教育センター	市教育機関	近畿	梶本委員
6	2012年7月27日	豊中市教育センター	市教育機関	近畿	石原委員
7	2012年7月31日	大津市教育センター	市教育機関	近畿	木村委員
8	2012年8月2日	前橋市教育委員会	市教育機関	関東	佐久間委員
9	2012年8月3日	同上	市教育機関	関東	佐久間委員
10	2012年8月3日	川崎市総合教育センター	市教育機関	関東	三宅委員
11	2012年8月3日	盛岡市教育研究所	市教育機関	東北	西田委員
12	2012年8月7日	高知市教育研究所	市教育機関	四国	三宅委員
13	2012年8月7日	岐阜市教育委員会	市教育機関	東海	榎本委員
14	2012年8月27日	佐賀県教育庁	県教育機関	九州	西田委員
15	2012年8月27日	同上	県教育機関	九州	西田委員

2. 4 開催団体からの報告

講師育成セミナーの開催団体からは、セミナー開催ご実施報告書を提出してもらう。開催団体からの実施報告書（抜粋）を以下に示す。

（1）高知県教育委員会

開催日時	平成24年6月8日(金) 13時30分～17時00分
開催場所	高知県教育センター本館
参加者人数	46名 内訳：指導主事 13名（社会教育主事含む） 小学校教員 3名 特別支援学校教員 2名 中学校教員 4名 研究教諭・研究員 8名 高等学校教員 15名 他 1名
セミナーの狙い	次に掲げる人材を育成する。 ・情報モラル教育に係る資料を提供し、解説すること等により、具体的な授業への展開手法や考え方を理解し習得することができる。 ・講師として情報モラル教育を指導することができる。 ・各学校等において、情報モラル研修を計画し実施することができる。
考察	新学習指導要領には、情報モラルを身に付ける指導が明記されており、児童生徒がこれからのネット社会を正しく歩んでいくためには、学校における情報モラル教育は大変重要である。 今年度は、高知県教育センター本館を会場として、一般財団法人コンピュータ教育推進センターとの共催により、「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを開催することができた。 当セミナーには、高知県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校、教育委員会等から46名の参加があり、岐阜聖徳学園大学 石原教授の指導により、講義及びワークショップを行った。 講義は、データから見るネット社会の現状、情報モラルの指導（理論編、実践編）、教材の紹介、保護者との関わり、問題発生時の対応等について、実際の事例等を踏まえ、実践に生かせる内容で展開された。このため、情報関係の事柄が詳しくない者にとっても、大変丁寧な分かりやすい内容であったと思われる。 また、ワークショップでは、校種別に10班に分かれ、研修計画又は授業計画を作成し、プレゼンテーションソフトや模造紙を使用し発表会を行った。セミナー参加者が各班の様々な発表を聴き合い評価することで、活発な交流ができた。 今後は、全ての参加者が情報モラル教育を指導できる人材として、学校や様々な機会で、情報モラル研修を企画し、実施していくことが期待される。 以上のことから当セミナーは、十分に効果のある講習内容であったと評価できる。
セミナー開催後について	6月以降、教育センターで計4回、土佐市で2回、高知若草養護学校、土佐希望の家分校で1回、中芸高校1回情報モラル研修を予定している。
セミナーの様子	 

(2) 新潟市教育委員会 総合教育センター

開催日時	平成24年6月13日(水) 14時00分～16時40分
開催場所	新潟市立総合教育センター
参加者人数	29名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 12名 中学校教員 14名 その他 1名
セミナーの狙い	各学校においてすべての教員が情報モラルを指導できるようためのリーダーとなる教員を育成する機会とする。
考察	「講義内容が体系的にまとまっており、わかりやすかった」、「ワークショップで他のグループの発表が参考になった」等の肯定的な感想が多く寄せられた。一方で「時間に余裕がなかった」「質問する時間が欲しかった」などの感想もあった。
セミナー開催後について	・7月30日実施の初任者研修(情報教育)の中に1時間設定する。 ・次年度以降も内容を「情報モラル指導研修」として今年度並みの日程で実施する予定である。
セミナーの様子	 

(3) 倉敷市教育委員会 倉敷情報学習センター

開催日時	平成24年6月27日(水) 14時00分～16時40分
開催場所	ライフパーク倉敷
参加者人数	62名 内訳：教育委員会 2名 幼稚園教諭 57名 その他 3名
セミナーの狙い	ワークショップ形式を含む研修を行うことで、幼稚園教諭の情報モラル教育への意識向上や、具体的な指導力を向上させる。
考察	・現状に即した講演・ワークショップ内容であったので、改めて情報モラル教育を行う必要性を幼稚園教諭が理解することができた。 ・ワークショップ研修では、研修参加者同士が資料内容や幼稚園の現状を話し合うことにより、参加者の情報社会に対する知識や考えの再認識を行うことができた。事例が「もしも不幸の手紙が『紙』のメディアで来たら?」「それが『電子メール』だったら?」「透明人間になったら何をしたい?」など、情報の伝わり方のちがいも提示されながら、具体的な研修内容でとても好評だった。「進んでいく技術についてあまりにも知らないことが多かった。」「避けて通るのではなく、正しく知ることによってトラブルから身を守ることができる。それを伝えなければならない。」「こうした話し合いならば実施できる。」と、感想の声が上がっていた。
セミナー開催後について	平成24年1月末現在。 ・職員に対する6月27日の研修報告 全幼稚園53園 ・資料を用いたワークショップ形式の研修実施(職員対象) 11園
セミナーの様子	 

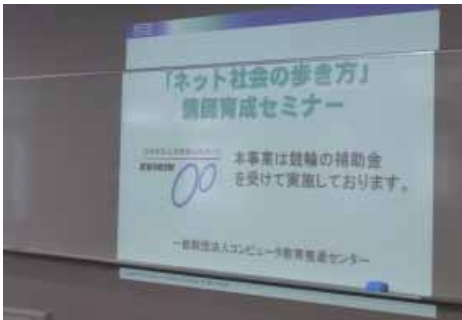
(4) やまぐち総合教育支援センター

開催日時	平成24年7月3日(火) 13時00分～15時50分
開催場所	やまぐち総合教育支援センター
参加者人数	46名 内訳：指導主事 7名 高等学校教員 10名 小学校教員 10名 特別支援学校教員 4名 中学校教員 11名 その他(聴講教員) 4名
セミナーの狙い	情報教育に関する指導力を高めるため、情報モラル教育の知識や指導方法について研修する。
考察	講義は、現在の情報社会における影の部分に関して、実例を多く挙げられた。特に、携帯電話をめぐるトラブルやその対策に関する説明は、学校の実態に沿った内容であり、たいへん有用な情報であった。 なお、今回のセミナーには、情報モラル指導の経験が浅い教員も多く参加していた。 そのような受講者にとって、研修を通じ、教科指導における情報モラルの「知の領域」の指導の重要性について強く認識できたことは、大変有用であった。 ワークショップでは、グループで選択した課題について話し合い、学校の課題に即した研修が進められた。学校に持ち帰り、すぐに活用したいという意見が受講者からも出されていた。
セミナー開催後について	今年度15回情報モラル研修講座を実施 所内研修講座： 5回……7月, 8月(3講座), 10月 出前研修講座：10回……7月(2講座), 8月(7講座), 10月
セミナーの様子	

(5) 奈良市教育委員会

開催日時	平成24年7月23日(月) 13時00分～16時00分
開催場所	奈良市教育センター
参加者人数	12名 内訳：指導主事 1名 小学校教員 9名 中学校教員 2名
セミナーの狙い	・情報モラル教育の必要性や指導の在り方等について研修することを通じて、本市教職員の、情報教育に関する能力の向上を図ること ・研修で得た知見を校内研修等で共有・活用することを通じて、情報の望ましい活用や情報モラルの涵養に関する教育活動の一層の推進及び指導者の育成を図ること
考察	前半は、講義を通して、ネット社会の現状や情報モラルの指導の在り方について研修を深めた。また「ネット社会の歩き方」のウェブサイト(http://www.cec.or.jp/CEC/)へのアクセスを各受講者が行い、現場での指導に役立つコンテンツを閲覧した。後半は、閲覧したコンテンツ等をもとに、授業プランを作成する形でのグループワークが実施された。 一連の研修、とりわけワークショップに取り組む中で、受講者は、情報モラルに関する指導を実際に行うに当たっての手立て等について考えるきっかけを得ることができたものと思われる。
セミナー開催後について	情報セキュリティ研修講座(7月) 情報と権利に関する研修講座(8月)
セミナーの様子	 

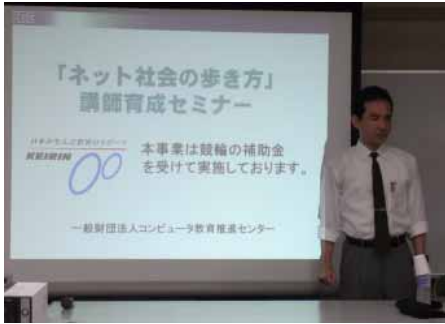
(6) 豊中市教育委員会

開催日時	平成24年7月27日(金) 13時30分～16時15分
開催場所	豊中市教育センター
参加者人数	16名 内訳：指導主事等 1名 小学校教員 11名 中学校教員 4名
セミナーの狙い	児童生徒がネット社会を正しく歩んでいくため、情報モラルの指導に関する講師を育成する。子どもへの指導方法はもちろん、全ての受講生が所属する学校において校内研修を実施できるよう、研修ノウハウならびに多数のデジタル資料を提供することにより、本市における情報モラル教育の推進に資するものとする。
考察	子どもたちのインターネット活用、次々に新しく生まれるサービスについての把握がよほど意識を高く持っていないと教員にとっては難しい。そのため定期的にこのような研修を設けることが必要であるが、実際にトラブル事象が生起しないと教員のなかに課題意識が生まれにくい面もある。道徳教育や総合的な学習の時間に位置付けてカリキュラム化することが必要である。
セミナー開催後について	・2学期以降3校で校内研修の実施を検討 ・教育委員会主催で2回の研修を予定(12月, 2月)
セミナーの様子	 

(7) 大津市教育委員会

開催日時	平成24年7月31日(火) 13時30分～16時30分
開催場所	大津市教育センター
参加者人数	20名 内訳：指導主事 4名 小学校教員 6名 中学校教員 10名
セミナーの狙い	「希望研修 ICT活用指導力向上研修講座」の1講座として実施。 教員のICT活用指導力のチェックリストDのカテゴリを指導する力量を向上することと、校内で開催する研修会の実施方法を習得することをねらいとする。
考察	希望研修であり、主催者側が意図した指導的な立場の参加者が少なかったが、大変丁寧に指導いただき、情報教育に精通していない教員でも教室で活用・指導できると自信を深めることができた。デジタル教材をたくさん閲覧できたことと、小グループで指導計画を検討できたことが、受講者には好評であった。
セミナー開催後について	平成24年8月29日(水)に教育の情報化リーダー研修会を開催。 大津市内の全55小中学校から担当者が参加し、情報モラル教育について研修する。
セミナーの様子	 

(8) 岐阜市教育委員会

開催日時	平成24年8月7日(火) 14時00分～16時00分
開催場所	岐阜市教育研究所
参加者人数	72名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 47名 中学校教員 22名 特別支援学校教員 1名
セミナーの狙い	情報モラルの学校教育での位置付けを知るとともに、児童生徒のICTに関わる実態及び指導の在り方について実践的に学ぶことができるようにする。そして、各学校で情報モラル講師として指導できるようにする。
考察	榎本教授より、具体的な事例を交えながら講義のため、児童生徒が置かれている現状を知ることができた。また、情報モラル教育を学校教育のどの時間でも行われなければならないことを指導要領解説書の内容とつなげながら話していただいたので必要性を実感することができた。問題行動があった際にどう対応するのか組織で動く必要性(情報担当だけで抱えない)という部分と相談された教諭が児童生徒を安心させ必ず解決してあげるといふ思いを伝え行動すること(教師自身の信頼性を高める)が大切であることを共有できた。
セミナー開催後について	開催時期は、各学校で卒業までに最低1回以上は行う。
セミナーの様子	 

(9) 川崎市教育委員会

開催日時	平成24年8月3日(金) 13時15分～16時30分
開催場所	川崎市総合教育センター
参加者人数	12名 内訳：指導主事 1名 小学校教員 3名 中学校教員 5名 高等学校教員 1名 特別支援学校教員 2名
セミナーの狙い	新学習指導要領で求められている情報モラルと、児童生徒に教えていく力を身に付け、ICT活用指導力の向上を図る。
考察	受講後に実施した先生方へのアンケートでも、「実践に即した研修ができた」「紹介された教材を利用して指導したい」「充実した内容の研修だった」などの答があり、実りある研修ができたと思う。 研修日数を増やしてほしいという要望もあった。
セミナー開催後について	情報モラル教育の必要性は解っているのだが、なかなか参加人数が増えていかない現状があります。もう少し増やしたいと思っているのですが厳しいです。 今年度は、このほかに著作権研修を平日夜間で2回横浜国大から講師を迎えて実施する予定です。 昨年に引き続き実施していただきありがとうございました。参加者は毎回少ないですが、少しずつ裾野を広げていきたいと思っています。
セミナーの様子	

(10, 11) 前橋市教育委員会

開催日時	平成24年 8月2日(木) 13時30分～16時30分 8月3日(金) 13時30分～16時30分
開催場所	前橋市総合教育プラザ
参加者人数	83名 内訳：指導主事 1名 小学校教員 48名 中学校教員 23名 その他 11名(ICT支援員など)
セミナーの狙い	前橋市の各学校におけるICT機器を活用した授業改善は進んできているが、情報モラル教育については消極的な学校もある。 そこで、本セミナーを実施することにより情報モラル指導事例を提供し、各学校での情報モラル教育の積極的な実践につなげたい。
考察	情報モラル教育の推進に向けて、情報モラル教育の必要性の講義と、指導カリキュラム表など学校現場ですぐに役立つ資料の提示があり、大変役立つ研修であった。 また、ワークショップ形式の授業プランの作成では、「ネット社会の歩き方」等を活用して学校現場でどのように授業を作り上げていけばよいか、より実践的な研修内容であり、とても有意義な研修であった。
セミナー開催後について	本セミナーを受講した内容を基に、各学校の校内研修等において情報モラル教育について研修を実施する。また、授業実践を通して各学校の情報モラル教育の計画をよりよいものになるよう改善を加えることで、情報モラル教育の充実を図る。
セミナーの様子	 

(12) 高知市教育研究所

開催日時	平成24年 8月7日(火) 13時10分～16時00分
開催場所	アルパス高知
参加者人数	66名 内訳：指導主事 1名 小学校教員 40名 中学校教員 18名 高等学校教員 1名 その他 6名
セミナーの狙い	情報モラルに関して生じている、学校間・学級間の格差を縮小して指導者の足並みをそろえるために、校内で情報モラル指導者を牽引する役割を果たすことができる人材育成が求められることから、各学校代表による悉皆研修を開催した。
考察	参加者が各校に研修内容を持ち帰り、研修が行えるよう、大変わかりやすく、工夫のある有意義な研修を実施していただいた。特に、①校内研修を実施する際に必要な提出資料が説明原稿とともに複数用意されており、各校の実態に合わせて組み合わせることが可能であること、②ネット社会の歩き方ホームページに魅力的な教材が多数準備されていること、③実際の校内研修企画立案を想定したグループ演習があること等は、情報モラル教育指導の牽引を担う学校代表参加者にとって、大変役に立つ実践的な内容であった。参加者からは、「演習を通して、実際に使えるプログラムをグループ内で協議しながら作成することができた点が良かった。」や「自信を持って研修を実施できそう。」との感想も出ており、満足度も高かった。 本研修は、様々な手立てによって、参加者のやる気と前向きな気持ちを引き出すとともに、情報モラル教育の充実に向けて、各校の実態に合わせたよりよい提案を可能にする内容であった。研修のねらいを十分達成したと考えている。 丁寧にご指導してくださった講師の三宅先生と、派遣に関しての準備を行ってくださった事務局の皆様到大変感謝している。
セミナー開催後について	- 希望研修(12月)及び悉皆研修(1月から2月の間)を、それぞれ各一回実施予定。 - 教職員や保護者を対象とした研修会を計画中。また実施済みとの連絡を複数校から受けている。
セミナーの様子	 

(13) 盛岡市教育委員会

開催日時	平成24年 8月3日(金) 14時00分～16時40分
開催場所	盛岡市立向中野小学校
参加者人数	36名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 17名 中学校教員 17名
セミナーの狙い	中学校新学習指導要領の完全実施にあたり、「情報モラル教育」の必要性については研修を行ってきたが、実際の授業の進め方等については不十分な面があった。市内各学校の代表者を通じて「情報モラル教育」の必要性や、具体的な指導方法について知る場を設けることで、情報モラル教育を各校に浸透させることをねらいとして本セミナーを実施した。
考察	「講師育成セミナー」ということで、各校の代表者が、今後校内研修や保護者の集会、授業等ですぐ使用できる資料やウェブサイトをご紹介いただき、大変参考になった。また、短時間ではあったが、少人数でのワークショップを行うことで、参加者が校内に広めるための方策について具体的に考えることができ、非常に有意義であった。
セミナー開催後について	市教委として1回。さらに、各校で校内研修が実施されるよう働きかけを行う。
セミナーの様子	 

(14、15) 佐賀県教育委員会

開催日時	平成24年8月27日(月) 9時00分～12時00分 13時00分～16時00分
開催場所	佐賀県立佐賀工業高等学校 C A I 教室
参加者人数	66名(第1部, 第2部合計) 内訳: 指導主事 1名 小学校教員 17名 中学校教員 13名 高等学校教員 33名 特別支援学校教員 2名
セミナーの狙い	学習指導要領に基づいて全ての教員が情報モラルに関する指導ができるように, 知識や技能を身に付け, 地域や学校の研修等で情報モラルに関する指導を行うことができる講師を育成する。
考察	西田先生の講義では, 情報モラルに関する様々な課題をデータとともに示していただき, 現在の状況や問題点について確認することができた。また, 課題に対する対応策も具体的に話していただき, セミナー後のアンケートでは, 「大変参考になった。」「校内研修等で資料を活用したい。」という感想が見られた。 ワークショップでは, 校種ごとのグループであったため, 抱えている課題が共通している場合が多く, グループ協議が活発に行われ, 短時間ではあったが, 多くのグループが実行できそうな計画を立案することができた。
セミナー開催後について	今年度1月に県内の保護者を対象に, 情報モラル等についてのシンポジウムを開催予定。
セミナーの様子	 

2. 5 アンケート結果より

開催するセミナー自体の評価と、今後のセミナーに生かしてゆくため、受講者にセミナーの内容や提供した教材・資料に対する意見などについてアンケートを実施した。以下にそのアンケートの集計結果を記載する。

今年度は13会場で15回のセミナーを開催し、受講者は566名（アンケート回収は420名）ということで、1会場平均44名程度の参加者であった。今回アンケート回収率が74.2%とやや低くなった点については、倉敷で開催したセミナーの受講者が幼稚園教員であったため、準備したアンケートとマッチしないとの判断から、アンケートを実施しなかったことが影響したかと思われる。

（1）受講者のプロフィール

①性別、年代について

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	無回答	合計
男性	33	97	127	79	0	4	340
女性	11	24	26	17	0	2	80
無回答	0	0	0	0	0	0	0
合計	44	121	153	96	0	6	420

昨年度は、受講者の内、15%が女性であったが、今年度は19%となった。

②所属（校種）について

学校					行政	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他			
200	133	57	14	2	12	2	420

受講者の約半数が小学校教諭、その約半分が中学校教諭というのは昨年度と同様であるが、今年度は高等学校教諭受講者が少なかった。

③職名について

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
1	0	12	378	12	6	11	420

④主な分掌分野について

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	無回答	合計
87	58	47	221	19	42	30	504

※複数回答可

分掌分野は、約半数が情報教育担当であった。（昨年度とほぼ同様。）

⑤担当教科について

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
173	23	56	11	15	37	36
英語	音楽	美術	書道	保体	その他	合計
14	3	6	0	14	40	428

今年度は高等学校教諭受講者が少なかったことから、「情報」の比率は下がり「技家」の比率が高まった。

(2) 受講者について これまでの情報モラルとの関わり

受講者の内、70.2%がこれまで指導者養成の研修会を受けたことがなく、87.3%が講師を行ったことがないとの回答であった。これは以下のように昨年度の結果とほぼ同等であった。

(23年度データ)

情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがない：68.0%

情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがない：87.3%

①過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか。

ある	ない	無回答	合計
122	295	3	420

②過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか。

ある	ない	無回答	合計
45	374	1	420

(3) 本セミナーの受講の動機

本セミナーの受講動機について

1:情報教育の担当になっているため	235
2:情報モラル指導のレベルアップのため	163
3:上司からの指示があったため	65
4:その他	26

※複数回答可

「その他」と回答した内、いくつか個々の事由の記載があった。それら事由は様々だが、自己啓発、不明な点の確認など積極的な事由が9件(37%)あった。具体的には学校内で「情報担当などになったため」「携帯電話のことで保護者から質問があったから」等あった。

(4) 本セミナーに対する評価

①本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

	1	2	3	4	
参考にならない	1	6	134	279	参考になる

受講者の98.3%から4段階評価で3以上、参考になるとの回答が得られた。

評価理由のコメントから…

コメントの中から多くみられたキーワードを探すと「資料」が59回、「参考」が30回、同じく「活用」が28回、「教材」が27回などとなっている。これら出現回数の多いキーワードからみても、受講者がセミナーにて提供された資料や教材、及び紹介されたコンテンツが参考になった、活用できるという感想が得られたものと判断される。

また、反面、「内容が多すぎる」「次から次へと話が進む」というようにセミナーの情報過多を指摘する意見もいくつかあった。限られた時間の中で多くのことを伝えようとする思いからの結果でもあるが、テキストも充実してきたこともあり、受講者の状況により項目に優先度を付け、優先度が低い項目はセミナー後に確認頂くような対応も必要かと思われる。

②本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

	1	2	3	4		無回答
活用できない	2	8	118	288	活用できる	4

受講者の96.7%から4段階評価で3以上、参考になるとの回答が得られた。

評価理由のコメント

コメントの中に多く出現したキーワードには「活用」が58回、「資料」が41回、同じく「教材」が35回、「ネット社会」が18回などと、セミナーが今後の研修の参考になったかを尋ねた前の質問と同じような傾向がみられる。これらキーワードの傾向からも、今回提供した教材が受講者にとって活用できるもの、有効なものと思われたことが判断できる。

その他の意見では、「ネット社会の歩き方をはじめて知った」というコメントがあった。これまで各所でセミナーを開催してきたが、まだ情報展開が不十分であることを痛感した。また今回で情報モラルの重要性はわかったものの、時間を確保することが大変だとの意見も多くみられた。どのような内容を、どのような機会に、どのように指導すれば良いのかという具体的な指導例を明示することも必要かと感じられた。

(5) セミナー開催後の研修予定について

本セミナー以降に、情報モラルに関連したセミナーや研修を開催する予定があるか。

1:開催予定はなし	227
2:現在予定はないが計画する	120
3:開催予定がある	39
4:その他	2

情報モラルのセミナー、研修の開催について、開催予定あり、開催を計画するという回答を合わせて159件、総回答数388の41%で開催する方向の回答が得られた。

受講者コメントからは、研修の開催は無理でもセミナーで得た情報を伝講するとの回答が数件あった。情報展開を中心とする勉強会の開催など、可能な範囲、規模から行動して頂きたいと思う。

(6) その他の感想、意見について

感想や意見のなかで目立った言葉は「ワークショップ」(出現回数：11)、時間(10)、サイト・ネット社会(8)などがあった。

セミナーの中で行うワークショップは、教員同士の良き情報交換であった、相互啓発と面で有効であったとの意見が多かった。時間については、提供する情報・内容に対して提供する時間が3時間程度では短い、もっと資料や情報を試したかったとの意見が聞こえた。

最後にセミナーの中心に据えた、情報モラル教材「ネット社会の歩き方」であるが、先生方にはまだまだ十分に展開できていないようで、今回のセミナーで初めて知ったなどの意見があった。参加された先生方が各学校に戻って参加できなかった先生方にも情報展開して頂くことを望む。

3. ICT社会におけるインターネットリテラシーの育成

3.1 社会的課題の現状

インターネットへの入り口であるパソコンや携帯電話は、日常生活における一般的な情報端末となり、それに対応して文部科学省も学習指導要領の改訂により総則において、児童生徒に対して情報モラルを身につけるよう指導することを明示した。一方、インターネット上においては、誹謗中傷やいじめの書き込みがされ、子どもたちを犯罪に誘う違法・有害情報があふれるという現状がある。青少年が被害に合うことのないよう、さらに情報化社会に積極的に参画するため、インターネットを適切に活用する能力を育成する仕組作りが必要となっている。

3.2 目指す姿と事業の目的

本事業ではこれらの社会状況に対して、インターネット社会への入り口であるパソコンや携帯電話などの情報手段（情報端末）を保有し始める15歳前後の青少年たちに、いかにそれらと上手に賢く付き合っていくかを理解させ、そのために必要となる判断力や心構えを身につけるための指導が行えるようにすることを目指した。またそれら指導では情報化社会の特性の一側面である影の部分を含めて理解させて被害者にならないための指導とともに、加害者にもならないための指導も行うことで、青少年に対してインターネットリテラシー（インターネットを活用する能力や技術）を育成することを目指した。

総務省が策定中のインターネットリテラシー評価指標より、インターネットリテラシーとして青少年に対し指導すべきかを検討、抽出して、高校生を中心とした年代を対象に評価指標に応じたインターネットリテラシーの育成が行える教材、テキストを開発することとし、開発した教材、全国の高等学校に配布して、生徒が教材、テキストからインターネットリテラシーを学ぶことで、インターネットを利活用できる能力や技術を育成する。

3.3 青少年向け教材の開発

（1）検討委員会の設置

今回、高校生を中心とした年代を対象にしたインターネットリテラシーの育成用の教材開発をするにあたっては、有識者、専門家からなる委員会を設置した。委員会のメンバーには、今回の教材開発が高校生を中心とした世代を対象とすることから情報モラル講師育成の活動の委員会メンバーより、中学校から大学にてインターネットリテラシーの指導経験のある有識者を選抜し、委員を構成した。

（2）インターネットリテラシー育成用教材の基本検討

開発する冊子に織り込む内容については、インターネットリテラシーの育成という点から総務省が平成24年9月に公表した「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標」を受けて設定した。



開発した教材（表紙）

「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標」より

1. インターネット上の違法コンテンツ，有害コンテンツに適切に対処できる。
 - a. 違法コンテンツの問題を理解し，適切に対処できる。
 - b. 有害コンテンツの問題を理解し，適切に対処できる。
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる。
 - a. 情報を読み取り，適切にコミュニケーションができる。
 - b. 電子商取引の問題を理解し，適切に対処できる。
 - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる。
 - a. プライバシー保護を図り利用できる。
 - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

また，冊子の中に織り込む具体事例については，青少年にも急速に普及しているスマートフォンを題材に追加し，スマートフォンで利用するサービスや使い方の注意点などを追加することとした。

（３）インターネットリテラシー育成用冊子の開発

実際の開発では各委員に担当ページを設定し，委員から出された提案を他の委員も含めて確認し，まとめた。当初の計画では，ある程度冊子のかたちになった時点で，実際の高校生に配布し，意見など確認して，見直す予定であったが，対象者である高校生自身が気づいていない事項なども先取りして記載する必要があること

とや，実際に教育の現場にいる教員である有識者の意見をもとに検討した内容であるということから，結果として高校生への聞き取りは実施しなかった。

また，今回開発した冊子では，これまでＪＫＡ殿の補助事業で開発した情報モラル教材「ネット社会の歩き方」のＷｅｂ公開版やデジタル教材のアプリ版とも関連づけが取れるような情報を掲載し，冊子以外の媒体からでも学べるよう工夫した。



開発した教材（内容例）

3.4 今後の活動について

今回開発したインターネットリテラシー育成用の冊子「中学生・高校生のためのネット社会の歩き方」については，開発完了が計画に対して遅れたため，学校などへの配布時期も遅れてしまったが，高等学校を中心とした学校に対し配付する。また，ＣＥＣが協力して行うセミナーでも積極的に配布し，有効利用してもらうよう計画する。

4. まとめ

4.1 ICT社会における情報モラル講師育成の活動

(1) 「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーの開催とそのまま利用可能な教材の提供

C E Cでは、2008年度から3年間、「全ての教科等における全ての教員による情報モラル教育」と「学校・家庭・地域が連携した情報モラル教育」を支援するため、財団法人J K A補助事業として、「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」検討委員会を設置、委員を全国に講師として派遣、セミナーを開催して、直接児童生徒と保護者に対して、情報モラル指導を実施し、開発した教材を紹介してきた。

しかし、これら活動ではより広く、確実な情報モラル教育を展開することは難しいと考え、昨年度から情報モラル教育を実施できる講師をより多く育成するための活動に内容をあらため、講師育成のためのセミナーを開催し新たな情報モラル教材の開発を行った。

本委員会で開発した情報モラル教材は、C E Cの情報モラル教材サイト「ネット社会の歩き方」の「先生・大人向け」→「教材の一括ダウンロード」からダウンロードして、校内研修会や地域研修会、児童・生徒を対象とした授業、保護者向け研修会で活用できるようにしてある。特にパワーポイントで作成した教材は、全くの初心者でも専門家と同じように話ができるよう「読み上げ原稿付きパワーポイント教材」としてある。

(2) 高評価を頂いたセミナーと提供教材

2012年度は、全国から県や中核市の教育委員会など団体の方々から申請頂き、各学校の情報教育担当の教員をおもな受講者として「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを全国13箇所、15回開催した。これらセミナーでは、C E Cホームページでも掲載しているテキストに沿い、「データからみるネット社会の現状」から、情報モラルの具体的な指導の方法、C E Cで公開しているアニメーションコンテンツ「ネット社会の歩き方」の活用やその他教材の紹介を行う。そしてセミナーの最後には研修成果を踏まえて、情報モラル研修を計画するワークショップを行うことを基本構成として実施した。セミナーの受講者は560名を越え、約半数が小学校教職員、4分の1が中学校)の教職員であった。倉敷市教育委員会情報学習センター殿からは幼稚園教諭向けの依頼があり、情報モラル教育への意識向上・指導力向上のためということで対応し開催した。

情報モラル指導者のためのセミナー受講は初めてという受講者が7割であり、アンケートからも昨年度同様、セミナーにて得られた教材や指導方法などの情報が受講者にとって大変有効であったとの回答が得られた。（「本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか」という4点満点評価の間に98%以上の受講者が3点以上の評価をし、「本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会実施の際に活用できるか」という問に対しては、96%以上の受講者が3点以上の評価をした。）感想・意見には「ワークショップ」というキーワードが11件の回答に見られ、講師からの情報提供だけでなく、教員という同じ立場の受講者間で意見や情報の交換ができた点も良かったとの回答が見られた。

これら結果より、「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーは良い評価を頂いており、来年度も継続して開催し、各教育委員会からの積極的な応募を期待する。

4.2 ICT社会におけるインターネットリテラシーの育成

C E Cが開発した『親子のためのネット社会の歩き方』テキストが大変好評を博しているが、これは小学生・中学生を中軸においたテキストで、より高校生を対象とした教材がなかった。また、近年のスマートフォンの急速な普及などにより、中学生・高校生の間ではインターネットに関連した新たな問題が発生しており、それらに対応可能な教材の開発が喫緊の課題となっていた。

そこで、C E Cでは、講師育成セミナーの委員会を母体に、今年度「中・高校生向冊子作成検討委員会」を発足させ、スマートフォンによる意図せぬ情報流出やウイルス感染など、従来の携帯電話とは異なる問題にも対応できる中学生・高校生向けテキストの開発を行った。

また、本テキストは授業で活用するだけでなく、中学生・高校生が家庭等でも楽しみながら自主的に学ぶことができるような構成を考慮し、以下のような特徴ある内容とした。

<特徴的な内容>

- ・SNSや無料通話アプリなどの「ID連動」による危険性と緊急対応策
- ・電話帳や各種情報の不正取得を目的とした危険なアプリの見分け方と対処方法
- ・ネットゲームの落とし穴
- ・ネットいじめなどの被害を受けた時の対処方法
- ・望ましいネット社会の構築と、対面の人間関係・ネット上の人間関係双方の大切さ
- ・各種トラブル対応と相談先

来年度の「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーでも受講者に配布する予定でいる。是非積極的に活用していただきたい。

4.3 次年度へ向けて 継続と促進

この「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー事業を始めて今年度が2年目となるが、受講者は合計約1,000名となった。また、昨年度開発したデジタル教材をはじめC E Cホームページからダウンロードされる情報モラル教材やプレゼン用資料は数多くダウンロードされ、アメリカ、中国など海外からもダウンロードされている。情報モラルの親子向けセミナーから講師育成セミナーのように、形を変えながらも継続して活動することにより、それら成果も徐々に定着し、浸透してきている。しかし、より確実に児童・生徒に働きかけるためには、学校の中に止まることなく家庭・地域と連携した情報モラル教育の実現を目指す必要があり、そのためには本委員会活動についても、より一層の展開と促進に向けた対策が求められていると感じる。

新学習指導要領にある「すべての教科等ですべての教員が情報モラル教育を実施」を実現するためには、今後も本委員会による指導者研修を継続して実施することで、全国で情報モラル教育に関する研修会が自主的に開催されるよう支援していくことが必要であると考え。そしてより効果的に展開していくために、以下のような改善を加えて対応していく方針である。

その一つは、これまでセミナーの開催については出された申請により開催地を選定していたが、有識者からも意見、提案等を頂くことでセミナー開催地の掘り起こしを行い、これまで積極的に申

請が出てこなかった地域においてもセミナーを開催するようにしたいと考えている。また二点目は、教育委員会などの纏まったかたちでの対応が難しいとか、実際に体験してみないとどんなセミナーなのかイメージできないという声に対する対応として、毎年3月に開催する成果発表会の中で情報モラルセミナーを開催し、受講者を応募したいと考えている。今年度も成果発表会での情報モラルセミナーを開催したが、時間と会場の都合で通常のセミナーに比べかなり小規模での開催となってしまった。次回は今年度の反省点を踏まえ、ワークショップなどを含めたセミナーを体験して、理解してもらい、新たな促進を図りたいと考えている。

アンケート質問票

アンケート イメージ

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー アンケート

1. 受講者プロフィール 該当する項目を○で囲んで下さい。

- ① 性別、年齢：男・女 20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代
② 所属：学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、その他) 行政
③ 職名：校長、副校長、教頭、教諭、指導主事、その他()
④ 主な分掌分野：教科指導、生徒指導、教務、情報教育、研修、その他()
⑤ 担当教科：小学校、情報、技家、国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、書道、
保体、その他()

2. 過去に、情報モラル指導者を養成するための研修会に参加したことがありますか。 1:ある 2:ない

3. 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。 1:ある 2:ない

4. 本セミナーの受講動機について、該当する項目の番号を○で囲んで下さい。(複数回答可)

- 1:情報教育の担当になっているため 2:情報モラル指導のレベルアップのため
3:上司からの指示があったため
4:その他()

5. 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になりますか。

4段階で評価して下さい。また、そのように判断した理由をお聞かせ下さい。

参考にならない ○ ○ ○ ○ 参考になる
1 — 2 — 3 — 4

理由:

6. 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会実施の際に活用できますか。

4段階で評価して下さい。また、そのように判断した理由をお聞かせ下さい。

活用できない ○ ○ ○ ○ 活用できる
1 — 2 — 3 — 4

理由:

7. 本セミナー以降に、情報モラルに関連したセミナーや研修を開催する予定がありますか。

1:開催予定はなし 2:現在予定はないが計画する 3:開催予定がある

4:その他()

8. その他、ご感想やご意見がありましたらご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。

I C T社会における安全・安心確保に関する補助事業 実施報告書

発行・著作 一般財団法人コンピュータ教育推進センター

〒108-0072 東京都港区白金1丁目27番6号

TEL 03-5423-5911 (代表)

FAX 03-5423-5916

<http://www.cec.or.jp/CEC/>

禁無断転載



Center for Educational Computing